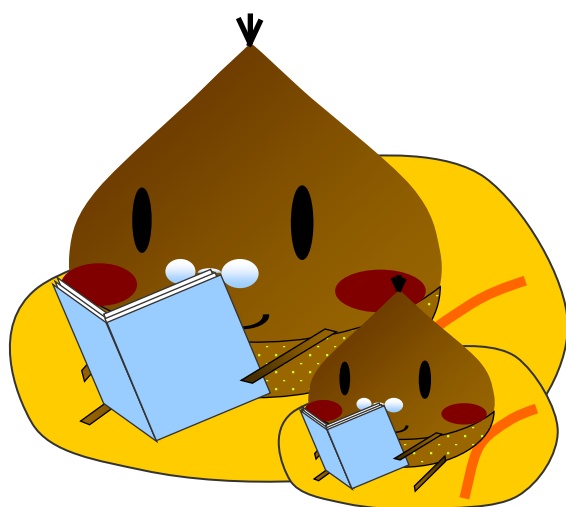


第2次 能勢町子ども読書活動推進計画



令和3（2021）年3月

能勢町教育委員会

目 次

1. はじめに
2. 計画の基本方針
3. 計画推進の期間
4. 読書活動の推進
 - (1) 読書環境づくり・きっかけづくりの方策
 - (2) 読書習慣づくりの方策
 - (3) 読書活動推進体制づくりの方策
5. 読書活動を推進するための今後の課題
6. 参考資料
 - (1) 子ども読書活動の実績
 - (2) 子どもの読書活動の推進に関する法律

1. はじめに

子どもの読書活動は、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」（子どもの読書活動の推進に関する法律第2条）です。

最近ではテレビ、インターネット、スマートフォン等の様々な情報メディアの発達・普及や子どもの生活環境の変化、さらには、幼児期からの読書習慣の未形成などにより、子どもたちの「読書離れ」「活字離れ」が指摘されています。

子どもたちの読書活動を推進するため、国は平成13（2001）年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布・施行し、平成30（2018）年4月に「第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しました。大阪府では、令和3（2021）年3月に「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」が策定される予定です。

本町においても、国・府の計画と整合を図りながら、平成28年8月に「能勢町子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書習慣が身に付くように環境整備のための基本的な考えや方策を示してきました。今回、計画期間の終了を迎えることから、これまで5年間の事業推進状況を踏まえ「第2次能勢町子ども読書活動推進計画」を策定することとします。

2. 計画の基本方針

読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、想像力を豊かなものにし、人との絆を育み、人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないものです。乳幼児期に読書に対して最初の興味を持ち、学童期前後に読書習慣が身に付いた後、高校卒業後も一生を通じて読書の喜びが得られるようにするための発達段階に応じた読書環境の整備・充実が必要です。

子どもが本をよく読むようになるための条件は、身近に本があることと子どもと本をつなぐ「人」が存在していることだと言われています。

本を通じて、言葉を学び、知識を獲得し、思考を深化し、創造する力や表現力を磨くとともに、会話をはじめとする情報発信能力が涵養されることにより人と人とがつながります。

つまり読書は自己教育の中心としての役割を果たすだけでなく、コミュニケーション力を養う有効な手段でもあります。

乳幼児期から読書に親しみ、生涯にわたって読書を楽しめる環境を整えていくとともに、読書を通じて、世代を超え地域の実情に合わせた人づくり、地域づくりを目指すことを目的に「第2次能勢町子ども読書活動推進計画」を策定します。

第2次能勢町子ども読書活動推進計画の基本方針

【方針1】 乳幼児期から本に出会い、生涯を通じて読書を楽しめる環境を整える

（読書環境づくり・きっかけづくり）

【方針2】 子どもたちが本に親しみ、本を読む力・本から学ぶ力を育成する

（読書習慣づくり）

【方針3】 読書を通して、世代を超え地域の実情にあわせた人づくり、地域づくりを目指す

（読書活動推進体制づくり）

3. 計画推進の期間

令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間

4. 読書活動の推進

子どもの読書活動を推進するためには、子どもの身近なところで本と親しむことができる環境をつくるのが大切です。

とりわけ、乳幼児期において、子どもは大人から民話や物語等を聞いたり、読書をしている大人の姿を見たりするなどして読書に対する意欲が高まり、読書を身近に感じるとともに、読書の習慣化につながることを期待できます。

子どもが自主的・習慣的な読書活動を身に付けていくためにも、保護者をはじめ、周りの大人自らが子どもの読書活動に理解と関心を持つことが特に重要です。

このため、保護者はもとより地域全体で読書活動を推進する機運を一層高める必要があります。

(1) 読書環境づくり・きっかけづくりの方策

子どもの発達段階に応じて、子ども自身が読書の楽しさを知るきっかけをつくり、読書の幅を広げ、読書体験を積めるような機会を提供できる環境づくりに努めることが必要です。

子どもたちが身近な場所で本と出会い、本の魅力を知り、読書が好きになるきっかけを様々な場面で展開する事業を推進していきます。

事業名	実施内容・今後の方向性
としよしつまつり	生涯学習センター図書室(以下「図書室」という。)で、絵本に関するクイズや人形劇等、多様な子ども向け行事を「としよしつまつり」として年2回開催し、子どもたちや子育て家庭が図書室を知る・図書室を訪れるきっかけとします。
おはなし会	図書室で毎週土曜日に就学前児童(親子)を対象とした絵本の読み聞かせ会を絵本読み聞かせボランティアの協力のもと開催し、親子で絵本に親しむきっかけをつくります。
えほんのひろば	毎週土曜日のおはなし会開催に合わせ、図書室児童書コーナーに「えほんのひろば」を設置し、いろいろな本に出合うきっかけをつくります。
えほんのひろばウィーク	「こどもの読書週間」や「読書週間」に合わせた時期に、能勢ささゆり学園図書室(以下「学校図書室」という。)や図書室で「えほんのひろばウィーク」を実施し、身近な場所で自由に絵本を読むことができる環境をつくります。
特別展示	図書室や学校図書室等においてテーマを定めた特別展示を行い、図書室を訪れたり、本を通じて興味を深めたりするきっかけをつくります。

事業名	実施内容・今後の方向性
放課後児童クラブや元気ひろばへのアウトリーチ活動	小学生が集まる場所へ図書室から出向き、ブックトーク ¹ やアニメーション ² 等を通じて、本を読む楽しさを伝え、発達段階に応じた本を紹介し、本に親しむきっかけをつくります。
親子教室(ピンキールーム)や子育て講演会へのアウトリーチ活動 ³	能勢町地域子育て支援センターにおける親子教室(ピンキールーム)や子育て講演会へ図書室から出向き、就学前児童や子育て家庭が図書室を知るきっかけをつくとともに、身近な場所で本に親しむことができる環境をつくります。
乳幼児健診時のおすすめ絵本リスト等の配布	乳幼児健診時に、図書室が作成した読み聞かせおすすめ本リストを配布し、発達段階に応じた絵本を紹介し、絵本を楽しむきっかけをつくります。
公共施設等での旧校文庫の設置	旧小学校・旧中学校図書室の本を活用して、公共施設等に旧校文庫を設置し、身近な場所での本との出会いの場を提供します。
ノセスタグラム	学校図書室において、いろんな方々のおすすめ本を写真とともにインスタグラム風に紹介する「ノセスタグラム」に取り組み、読みたい本を探すきっかけをつくります。
ごほうび雑誌	学校図書室に高学年・中学生が興味のある雑誌を配架し、学校図書室を訪れるきっかけをつくとともに、学校図書室が子どもたちの居場所になるような環境をつくります。
ブックスタート事業 ⁴	乳幼児前期健診に赤ちゃんと保護者に絵本の入ったブックスタートパックをプレゼントし、絵本を通じた親子のふれあいの大切さを伝えるとともに、絵本を知るきっかけをつくります。

¹ ブックトーク:テーマを設定して、何冊かの本を順に紹介し、子どもたちに紹介した本や読書への興味を持たせる方法。

² アニメーション:みんなで同じ本を読み(グループ読書)、読み終わったあと「作戦」を行う。楽しく遊びながら子どもたちを本の世界に招き入れ、読み手に育てていく方法。

³ アウトリーチ活動:本との出会いや本の魅力を伝えるため、図書室から積極的にさまざまな場所に出向き読み聞かせ等を行うこと。

⁴ ブックスタート事業:赤ちゃんと保護者に絵本をひらく楽しい「体験」と「絵本」をセットでプレゼントする活動。

(2) 読書習慣づくりの方策

子どものころに絵本の世界へ引き込まれ物語の楽しさを知ったり、本を読んで面白かったという体験を積み重ねたりすると、自主的に本を読み、読書習慣を身に付けることにつながります。読書習慣を身に付けた子どもは、生活環境の変化の中で一時的に読書離れすることがあっても、また本に親しむ環境に戻ってきます。

家庭や学校・幼稚園・保育所等で子どもが本を読む時間を取れる環境を整え、生活の一部として本に親しむことができるよう事業を推進していきます。

事業名	実施内容・今後の方向性
団体貸出	学校・幼稚園・保育所・地域団体等に団体貸出を行い、日常的に様々な分野の本を読むことができる環境をつくります。
本のリサイクル市	「としよしつまつり」に合わせて、「本のリサイクル市」を実施し、無料で本を提供することにより、読んでみたいと思う本が子どもたちの周りにある環境をつくります。
スタンプカード・シールラリー	図書室やらくだ図書館でスタンプカードやシールラリーを実施し、継続的に本に親しみ読書意欲を高める環境をつくります。
本の福袋	図書室において「本の福袋」による貸出を行い、発達段階に応じた本選びを支援し、読書の楽しさを継続的に経験できる環境をつくります。
らくだ図書館	月に1回、図書室から能勢ささゆり学園に出向き、日常生活の中で本を読む時間を提供します。また、ブックコンシェルジュ ⁵ のサポートにより発達段階に応じた本選びを支援します。
よもよも～本と遊ぼうアニメーション～	小学生を対象としたアフタースクールのメニューの一部として学期に1回、よもよもを実施し、読書の面白さを体験できる活動を提供します。
NIE(Newspaper in Education)	図書室や学校図書室において、新聞を教材として活用し、子どもたちの読解力やコミュニケーション力を身に付ける一助とし、興味や目的に合った魅力的な本や幅広い分野の本と出合える環境をつくります。
放課後児童クラブ蔵書の定期的な入れ替え	放課後児童クラブ蔵書の定期的な入れ替えを図書室司書が支援し、常に興味のある本が身近な場所にあり、自主的に本を読むことができる環境をつくります。
朝読書	能勢ささゆり学園において、朝の会の時間を活用し読書習慣を身に付けることを目的として朝読書に取り組みます。

⁵ ブックコンシェルジュ: 読みたい本が見つからない、何を讀んでいいかわからない児童生徒に個別に本選びをサポートする図書司書のこと。

事業名	実施内容・今後の方向性
家読(うちどく)	学校図書室において、小学生とその保護者を対象に家族みんなで読書することで家族のコミュニケーションを深めることを目的とした「家読」を年2回程度実施します。
Web 本棚サービス「ブックログ」	学校図書室の新着図書をWeb 本棚サービス「ブックログ」に掲載し、インターネットでも検索・閲覧することができる環境をつくります。
ブックプレゼント事業	就学前児童を対象に誕生月に毎年絵本を1冊プレゼントし、家庭の中に絵本があり、子どもと保護者が日常的に一緒に絵本を楽しむ環境をつくります。

(3) 読書活動推進体制づくりの方策

子どもが自主的に読書を行うためには、周りの大人が、それぞれの立場から読書活動に理解と関心をもって子どもに接することが大切です。

図書室司書や学校司書等の教職員、保護者、読み聞かせボランティア等の読書活動に関わる人材を確保・育成し、子ども読書活動を推進する体制づくりを推進します。

事業名	実施内容・今後の方向性
職場体験の図書室への受入	図書室で中学生の職場体験を受け入れ、将来の読書活動に関わる人材育成を支援します。
学校司書の配置	学校図書室に専属の学校司書を配置し、学校図書室サービスの改善・充実を図ります。
絵本読み聞かせボランティア養成講座	絵本読み聞かせボランティア養成講座を開催し、読書活動に関わる地域人材を確保・育成します。
図書室合同会議	図書室と学校図書室が定期的に会議を実施し、連携・協力体制を強化し、積極的に子ども読書活動を推進します。
図書司書を対象とした研修	図書司書を対象とした研修を定期的実施し、児童・青少年用図書に関する知識や読書指導に関する技術を身に付け、資質・能力の向上に努めます。
子ども読書活動推進計画の策定及び推進	能勢町子ども読書活動推進計画を策定し、取組内容を振り返り、改善を加えることにより読書環境の向上を図ります。

5. 読書活動を推進するための今後の課題

子どもの読書活動を推進するには、発達段階に応じて家庭・地域・学校がそれぞれの役割を担い、図書館を拠点に関係機関と密接に有機的なネットワークを構築し、読書環境を整えることが大切です。

特に、クラブ活動や塾、習い事等で時間に制約があったり、インターネットやゲームに時間を費やすことが多くなったりして不読率が高くなる中学生・高校生の時期にある子どもたちの読書の量や質を向上することは重要な課題です。

また、スマートフォンの普及や、それを活用した SNS（ソーシャルネットワークサービス）等コミュニケーションツールの多様化は、子どもを取り巻く情報環境に大きな変化をもたらしています。こうした環境の変化に対応した読書環境の模索も今度の課題といえるでしょう。

【今後の課題に対する子ども読書活動の検討事項】

- ・図書館でヤングアダルト向けおすすめ図書をホームページに掲載するなどして、情報発信する。
- ・学校図書館と授業との連携を強化し、調べ学習の支援を行う。
- ・ビブリオバトル⁶や読書感想文コンクール等の手法により本との出会いの機会を拡大する。
- ・市内の府立高校図書館と連携し、高校生を対象とした読書活動推進事業に取り組む。
- ・デジタル書籍の導入について検討する。

⁶ ビブリオバトル:参加者が読んでおもしろいと思った本を1人5分程度で紹介し、発表後に参加者全員で発表に関するディスカッションを行い、どの本が一番読みたくなったかを投票で決める本の紹介コミュニケーションゲーム。